

残された日

小川未明

青空文庫

長吉は学校の課目の中で、いちばん算術の成績が
 悪かったので、この時間にはよく先生からしかられました。先
 生というのはもう四十五、六の、頭のはげかかった脊の低い人
 でありました。長吉は朝学校へゆきます前に時間割りを見
 まして、自分の好きな作文や、歴史の時間などがあつて、算
 術の時間がない日には、なんとなく学校へゆくのが楽しみで、
 またうれしくて勇んで家から出てゆくのでありましたが、もしそ
 の日に算術の時間があつたときは、なんとなく気持ちが悪く
 て、おもしろくなくて、ゆくのがいやでたまらなかつたのです。

彼は学校の先生からも、また両親からも、

「おまえは算術さんじゆつができないから、よく勉強べんきよう強つよしなくちやいけません。それではないと学年試験がくねんしけんには落第らくだいします。」

といわれるので、長吉ちようきちも落第らくだいしてはならないと思おもつて、家うち

へ歸かえつてからも、その日学校ひがっこうで習ならつてきた算術さんじゆつはかならず

復習ふくしゆういたしました。しかし、よくよく性分しやうぶんから算術さんじゆつ

がきらいとみえて、まったく覚えおぼこみもせず、すぐわすに忘れてしま

つて、なにがなんであつたかわからなくなつてしまいました。

彼かれは独ひとりで、ほかの友ともだちは、みなさうとうに算術さんじゆつがで

きるのに、なぜ自分じぶんばかりはこうできないのかと情なさけなくなつて、

机つくえに向むかつて涙なみだをこぼしましたこともありました。けれど、作さくぶ

文ぶんや歴史れきしなどは好きすきなものですから、だれよりもいちばんよく

できたのであります。

もうじきに冬の体みふゆ やすがくるのでした。そろそろ学校がっこうでは試験しけんが始まりました。算術さんじゆつは平常へいじようの点数てんすうが試験しけんに關係かんけいします。ので、みないつしようけんめいに勉強べんきようをいたしました。家の外いえ そとには雪ゆきが二、三尺も積もっていました。そして子供こどもらは、学校がっこうから帰ると外そとに出て雪投げゆきなをして遊あそんだり、角力すもうを取とつたりした。雪ゆきだるまなどをこしらえて遊あそんだりして、夜よるになると燈あかりしたつくえむ火の下で机かきに向むかって、明あくる日の学がっこう校の課目かもくを勉強べんきようしたのであります。今日きようも長ちようきち吉きちは学がっこう校から帰かえると、自分じぶんのへやに入はいって机つくえの前まえにすわつて物思ものおもいに沈しずんでいました。外そとは雪ゆきが晴はれていて、子供こどもらがみんなさもうれしそうにして遊あそんでいる、

その声こえが聞きこえてきます。また風たこを上げている籐とうのうなり声こえなどが聞きこえてきました。長ちようきち吉きちは自分じぶんも外そとに出て、友ともだちの仲間なかまに入はいつて遊あそびたいのでありますが、明日あすは算さん術じゆつの宿しゆく題だいがある日ひなので、まだそれがしてないので、どうしても外そとに出て遊あそぶ気きになれなかつたのであります。

すると友ともだちが門かどぐち口くちへ迎むかえにやつてきて、

「長ちようさん、遊あそびませんか？」

と、つづけざまに呼よんでいます。

「長ちようきち吉きちや、お友ともだちが呼よんでいますから、すこし外そとへ

出でて遊あそんできて、また勉べん強きやうをなささい。」

と、母ははがいました。

長吉ちようきちは思おもいきつて外そとへ出でてゆゆきました。けれど、みんなと
 いつものようにいつしよになつて、愉快ゆかいに遊あそぶ気き持ちもになれませ
 んでした。彼かれは独ひとり雪路ゆきみちの上うへに立たつて、茫ぼん然やりとして友ともだちら
 が角力すもうを取とつたり、雪ゆきを投なげ合あつてゐるのを見みていたばかりです。
 ちよう
 「長ちようさん、角力すもうを取とらないか。」
 と、一人ひとりが彼かれに向むかつていいました。

「いやだ。」

と、彼かれはくくびを振ふりました。

「どこか気き分ぶんが悪わるいのかい。」

と、ほかの一人ひとりが、さも心しん配ぱいそそうな顔かおつきをして彼かれの顔かおをのぞ
 きこみました。彼かれは黙だまつていました。ほかの子供こどもらは長吉ちようきちが

気分きぶんが悪いわるのだと思おもつて、ふたたび彼かれに角力すもうを取とる仲間なかまに入はいれと誘さそわなかつたばかりでなく、あまり気分きぶんの悪いわる友ともの前まえで大おおきな声こえを出だして騒さわぐのはよくないと思おもつて、みんなは遠慮えんりよをして遊あそんだのでありました。

冬ふゆの日ひはじきに暮くれかかつて、かなたの黒くろいすぎ林ばやしの頭あたまに寒さむいにしきた西北せきほくの風かぜが吹ふいて、動うごいているのを見みていきますと、またちらちらと雪ゆきが落おちてきました。いままで、家うちに帰かえるのを忘わすれて手足てあしの指ゆび頭さきを真まっ赤かにして遊あそんでいた子供こどもらは、いつしかちりぢりにわかれて各めいめい自うちの家かえへ帰かえつてしまいました。そして、外そとはまったくひとかけ人ひと影かげも消きえて、静しずかになつてしまいました。

長ちようきち吉きちはその夜よも机つくえに向むかつて算術さんじゆつの宿題しゆくだいを勉べんきよ

強ういたしましたけれど、どうしても答こたえができなくて考かんえてい
 ますうちに眠ねむくなつて、ついに寝ねてしまいました。明あくる日ひ学がっ
 校うへいつてからも算さん術じゆつの時間じかんになるのが気きにかかつて控ひかえ
 場じようにみんなが遊あそんでいるときでも、長ちよう吉きちは独ひとりふさいでいま
 した。午ご前ぜんには体たい操そうや、地ち理りや、習しゆ字うじの時間じかんがあつて、午ご後ご
 からはいよいよ算さん術じゆつの時間じかんがあるのでした。
 彼かれは今日きようはどうか自分じぶんにあたらなければいいかと心こころのうちでそ
 ればかり祈いのつていました。やがてその算さん術じゆつの時間じかんとなりまし
 た。教きよう師しは手てに白ちよう墨くと平へい素そ点てんを記き入にゆうする手て帳ちようとを持もつ
 て教きよう室しつに入はいつてきました。いままでがやがやといつていまし
 た教きよう室しつの中なかは、急きゆうに火ひの消きえたように寂ひっそり然りとなりました。

やがて級長が礼をかけてみんながおじぎをしますと、先生は、じろりと壇の上に立つてこつちを見まわしました。みんなの胸の中はどきどきしたのです。

「宮川さん、出て、宿題の一番めをお書きなさい。」
と、先生は大きな声でいいました。呼ばれた生徒は頭をかきかき出て行って、黒板にそれを書きました。

「みなさん、これでよろしいですか。」
と、先生は、はげかかった頭を光らして、眼鏡ごしにこつちを見ました。

「よろしゅうございます。」
と、みんながいました。

「さよう、これでよろしい。」

と、先生はいって、宮川の姓が書いてあるところへ手帳に点数を書き入れました。

「今度は……。」

と、先生はいって、また一同をじろじろと見まわしました。長吉は心のうちでどうか自分のがれてくれればいいがと、く

びをすくめていました。

「吉田さん、出て、第二番めをお書きなさい。」

と、先生はいいました。長吉はやつと自分でなかつたので

安心しましたが、吉田と呼ばれた生徒と自分とはわずかに二、

三人間を隔てていくくらいでありましたから、なんとなく脱れが

たいような気がして胸がどきどきいたしました。吉田はぐずぐずしてすぐに出ていかなかったので、いつそう長吉は気がいらして、もし自分にあたたらどうしよう、このまえのときも自分ではできなかつたのだから、きつとしかられるに違いがないと気をもんでいました。それでもついに吉田は出てゆきました。そして黒板に答えを書きました。それは滞りなくできていたので、吉田の顔は華やいであうれしそうです。ありました。

「今度は……第三番めを、中村さん、出てお書きなさい。」

と、俄然、先生の命令は、長吉の頭の上に落ちたのであります。彼の耳は焼けるように熱くなって、急に血が上つて顔は赫々となりました。彼は出て書けなかつたから、いつまでも

ぐずぐずしていました。すると、

「さあ、早くおいでなさい。あなたは、してこなかったのですよ。このまえのときもしなかったじやありませんか。」

と、先生は、かんしやくを起こしていいました。けれど長吉は下を向いて、黙っていついに出なかつたのです。

「よろしい。今日は帰つてはいけませんよ。後にお残んなさい。」と、先生は怒つた声でいつけて手帳になにか書き入れました。

長吉は、もうしかたがなかつたのです。心のうちで祈つたことがなんの役にも立たなかつたのです。そしてその日は、ほかの生徒らが勇んで帰つてしまつたにかかわらず、ひとり教室に

残のこっていたのです。広い教場ひろ きょうじょうの中に、ただ自分じぶんひとりぎりになるきゆうと急に四辺あたりが寒さむく、わびしくなつて見みえました。いままでここには知しった顔かおがあつたのが、まったく空漠くうばくとなつて机つくえだけならんでいるばかりです。そしてうす濁にごつたように曇くもつたガラス窓まどをとおして外そとを見みますと、灰色はいいろの寒さむそうな空そらが低ひくく垂たれ下さがつていて、一面めんに下したには雪ゆきが積つもつていたのでした。

だんだん時ときがたつに従したがつて、長ちようきち吉きちは心こころ細ほそくなつてきました。そして、いまごろお母かあさんは自分じぶんの帰かえりが遅おそいからどんなに心配しんぱいしていなさるだろうと思おもいますと、かえつて自分じぶんは気きが気でなかつたのです。そのとき、寒さむい風かぜに吹ふかれてどこからともなく、からすが一羽わと飛とんできて、窓まどぎわに立たつていたかきの木きの

枯れ枝かえだに止とまりました。そして小こくびをかしげてこちらをのぞいて、

「あほう、あほう。」

とあざけるようにないで、またいずこへとなく飛とび去さつてしまいました。長ちようきち吉きちはもはや胸むねの中うちが悲かなしみでいっぱいでしたから、これたいに対して怒おこる気きにもなれませんでした。彼かれはただ母ははおや親おやがどう思おもつて心しんぱい配はいなさつているだろうかと、そればかり考かんがえていたのです。

からすが飛とび去さつた後のち、まもなくすずめが二、三羽ばやはり同おなじ枝えだにきて止とまつて、窓まどの内うち側がわをのぞくようにしてないていました。しかしそれは、なんとなく哀あわれな長ちようきち吉きちの心こころのうちを知しつ

て、それに対して同情して同 情しているように思われましたので、長

吉は窓のきわへいつて、すずめのほうに顔を寄せて、

「お母さんのところへいつて、私は今日算術ができなくて残

されたからといつておくれ。」

と、小声で切に頼んだのでありました。すずめはさながらこの依

頼を聞き分けたように、やがて小声にないて、いずこへか飛び去

つてしまいました。するとほどなく先生がこの教場に入つ

てきました。長吉は先生の前へ呼び出された。

「あなたは勉強強しないんでしょう。勉強強をしてわからな

い道理がない。」

と、先生はいいました。長吉は、いっただれがこの算

術ゆつの法ほう則そくを考かんえ出だして作つくつたものか、よほどその人ひとは偉えらい人ひとであると同時に迷めい惑わくなことを考かんえたものだ。それがために自分じぶんは、こんなくろに苦くるしまなければならぬのだと思おもいました。

「先生せんせい、あなたさんが算さん術じゆつというものをお作つくりになつたのですか。」

と、長ちよう吉きちは突とつ然ぜん、先せん生せいに問といました。先せん生せいは驚おどろいたと
いうふうで、

「いいや、私わたしが作つくつたのではない、前まえからできていたのだ。」
と、低ひくい体からだを動うごかしながらいいました。

「先せん生せい、なんでもうすこし容たやす易やすく道どう理りがわかるように、その人ひとは算さん術じゆつを作つくらなかつたのでしようか。私わたしには、むやみに暗あんし

誦よしたり、法ほう則そくを覚おぼえてしまうことができないのです。」
と長ちよう吉きちは、先せん生せいに向むかつて訴うつた

「おまえばかりではない、みんながそれを覚おぼえて、りつぱにできるじゃないか。それをできないのは、やはりおまえが勉べん強きやうせんからなんだ。」

と、先せん生せいはかえつて長ちよう吉きちをわかりました。

長ちよう吉きちはやつと免ゆるされてその日ひの暮くれ方がた学が校がっこうの門もんを出でたのであります。彼かれは路みちを歩あるきながら、算さん術じゆつや、暗あん誦しようなどのない、すずめの世界せかいやからすの世界せかいがつくづく恋こいしくうらやましかつたのであります。そして、なんで自分じぶんはすずめに生うまれてこなかつたらうかと思おもいました。彼かれは先さつ刻き、学が校がっこうの窓まどのところ

ですすめに向かつて、お母さんに伝言をしてくれるようにと切
 に頼んだが、なにかいつてくれたかしらと思ひながら家に帰つて
 きました。すると、母親は、たいへんに長吉の帰りが遅い
 ので心配して門口の雪の上に立つて待つていました。そして
 我が子の顔を見ると、

「まあ、どうしてこんなに遅くなつたのだ、日が暮れるじやない
 か。」

と、飛び立つように聞きました。長吉は、心の中で、そんな
 らあれほど頼んだのに、すすめはなんにも、きてお母さんに告げ
 てくれなかつたのかと思ひ、つくづく鳥などというものは真につ
 まらないものだ。やはり人間ばかりがいちばん偉いのだという

ことを感^{かん}じたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 一」講談社

1976（昭和51）年11月10日第1刷

1977（昭和52）年C第3刷

初出：「処女」

1916（大正5）年1月

※表題は底本では、「残《のこ》された日《ひ》」となっていて
ます。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2013年10月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

残された日

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>